

長期モニタリング計画 評価項目の評価シート（イメージ）

評価項目	VII レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。			数 値 化 の 列 は 非 表 示 ↓												
評価項目選定理由	知床世界自然遺産地域管理計画に記載されている。															
評価案の作成主体	適正利用・エコツーリズムWG（海域WG、エゾシカ・ヒグマWGと一部調整）															
評価年月	2021年2月（予定）															
評価対象期間	2012年～2019年（ただし一部のデータは2011年以前のものも使用）															
総評	<p>評価値 2.75 注視すべき状態</p> <p>良好 要改善</p> <p><各モニタリング結果の評価分布></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価値</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table>			評価値	割合	5	60%	4	20%	3	0%	2	0%	1	20%	2.75
	評価値	割合														
5	60%															
4	20%															
3	0%															
2	0%															
1	20%															
<p><注視すべき状態> ヒグマとの軋轢やヒグマ捕殺数が増大傾向であり、状況改善が必要。その他の適正利用に向けた管理・取組は概ね良好な状態であり、ヒグマ関連以外では利用者等による自然環境への明確な影響は確認されていない。</p>																
対応するモニタリング項目とその評価	No.	モニタリング項目	個別評価	数値化												
	6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査		1												
	15	ヒグマによる人為的活動への被害状況		1												
	19	適正利用に向けた管理と取組		5												
	20	適正な利用・エコツーリズムの推進		4												
	（基礎情報・参考情報に関するモニタリング状況）															
	21	利用者数の変化	○													
	24	年次報告書作成による事業実施状況の把握	○													
25	年次報告書作成等による社会環境の把握	○														

長期モニタリング計画 評価項目の評価シート（イメージ）

評価の理由等	<p>（個別モニタリング項目の評価結果に係る背景、評価の理由のほか、評価プロセス等、評価結果に係る特記事項を簡潔に記載。）</p>
遺産地域の管理施策に関する特記事項・課題等	<p>（評価項目の評価結果に密接に関連する管理施策として、特筆すべき事項があれば記載。また、管理施策の現状等を踏まえた今後の遺産管理上の課題について記載）</p>
今後の遺産地域の管理の方向性に関する意見	<p>（調査手法等へのコメントではなく、上記課題を踏まえた「遺産地域の管理の方向性」等についての助言等があれば、適宜記載。）</p>